

○ 今月のみことば

N. J

「わたしたちは見えるものではなく、
見えないものに目を注ぎます。」

コリントの信徒への手紙(二)4章18節

10月は「ロザリオの月」、皆さんは聖堂訪問で「ロザリオの祈り」を唱えていますね。「ロザリオ」とは、バラの冠という意味で、聖母マリアへの祈りの一つひとつを一輪のバラとみなされています。日々忙しさの中、誰かに思いを馳せ祈りをささげることが、心が落ち着く時間であるとともに、自分を見つめ直す良い時間になっていると思います。

「かんじんなことは、目に見えないんだよ」

これはサン・テグシュペリが書いた「星の王子さま」の一説です。この世で最も美しいと思っていた故郷の花は、辺り一面に咲いていた花と見た目には一緒かもしれませんが、大切に育てたバラの花は、王子さまにとって代えがたい大切な花のほず、そのことに気づいた王子さまは故郷の星に帰る決意をします。時間をかけて育て絆をつくった一本のバラのもとへ。私たち一人ひとりにも、大切なことがきっと一つはあると思います。それは周りの人（親・兄弟・祖父母・親戚・先生・友人など）かもしれないし、もしかしたら動物や植物のような生き物かもしれません。大切なものに思いを馳せ、ロザリオの珠をくりながらマリア様に取次ぎを願う時間を大切にできたらと願っています。そして来月は「死者の月」、亡くなれた方を思い起こし、目には見えない主イエス・キリストとのつながりを大切にできたらなと願っています。

生徒の心に語り掛けたいこと

S. N

ある日、バスケットボール部の練習後に生徒と次のような会話をした。「わたし最近〇〇さんに負けてますか」と聞かれたので「少し負けてきたな」と言うと「やはり、そうですよね。頑張ります」。と言い残して下校していった。バスケットボールが好きで集まった生徒たちが、次の試合に向けてレギュラー争いをしている。しかも背

番号も競い合っている。キャプテン番号の4番から順に5番6番と一つでも上の番号を目指している。試合のたびに番号を発表し、必要ならその理由も付け加えるようにしている。互いに切磋琢磨して競い合う姿は嬉しい限りである。“負けたくない”この心が生徒たちを成長させていると感じることが多い。

少し自分の高校時代を振り返ると、かつての自分も負けず嫌いだった。高校から始めた剣道にはたくさんのライバルがいた。負けたくない一心で練習に励んだ。走って、筋トレ、素振りなど黙々と汗を流していた。連続100本の面や胴の切り返しや永遠に続くように感じられる掛かり稽古を全力で行っていた。その他にも自分たちの間での名物メニューが沢山あった。一つ一つが大切な思い出である。勿論友人と楽しく活動していたと思うのだが、しんどさと楽しさの割合は99対1程に感じたものだ。

勝負の世界は厳しいものである。“負けたくない”と思うなら、本気でやらなければならない。また、本気でやっているから“負けたくない”のだと思う。この心が互いの技術向上だけでなく、精神的な強さの成長にも繋がっていくのだと思う。そんな体験を中学・高校時代に学ぶことは人生の中で宝物になると思う。生徒の皆さんも、長い人生をより豊かに、力強く生き抜いていくために、今を大切に、できるだけ多くのことを学んで欲しいと思う。それがきっと長い人生において様々な場面で、自分を支えてくれると思うからである。

現在は趣味で剣道をしている。実は昨年ある地区の剣道の大会に出場した。残念ながら1回も勝てなかったが、またいつかベンジしたいと思っている。そしてもう一つ。来年で55歳になるが、自分の目標でもあった、剣道5段に挑戦しようと計画している。実現できるかどうかわからないが、自分の可能性に挑戦することを大いに楽しみたいと思う。